

令和7年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者 福山市立神辺小学校 石井 ひとみ

第6学年 1組 31名

- 1 単元名 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう
『鳥獣戯画』を読む「発見、日本文化のみりよく」（光村図書「国語 六 創造」）

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第5学年及び第6学年の〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと（1）ウの指導事項「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」及びC読むこと（1）オの指導事項「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」を受けて設定している。

「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」力を育成するには、書く目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断したり、事実と感想や意見との関係を捉え、文末表現に注意したりすることが必要となる。また、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」力を育成するには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことと、既存の知識とを結び付けて自分の考えを形成することが必要となる。

本単元で扱う『鳥獣戯画』を読むは、数々のアニメーション作品を手がけてきた筆者が「漫画の祖・アニメの祖」ともいわれる『鳥獣戯画』への愛おしさを語った説明的な文章である。筆者は、一幅の絵の一部分をクローズアップして示したり、読者に語りかけるような言葉を用いたりするなど、様々な工夫を取り入れて『鳥獣戯画』の魅力进行解説している。したがって、『鳥獣戯画』の魅力を伝えるうえでの論の展開や表現の工夫などを児童自身が見つけ捉えるのに適した教材であるといえる。また、「発見、日本文化のみりよく」では、『鳥獣戯画』を読むで捉えた筆者のものの見方や考え方、表現の工夫などを活用し、日本文化について調べたことや伝えたいことを文章に書き表す言語活動を行っていく。児童は、社会科での歴史の学習や総合的な学習の時間における地域文化・伝統の学習、京都・奈良での修学旅行を通して、様々な日本文化について学んだり触れたりしている。本単元では、これらの学習内容や経験をもとに、児童一人ひとりが興味をもった日本文化を選択し、その魅力を伝えるために構成や表現を工夫して書く力を育成していく。さらに、自分が興味をもった日本文化の魅力と『鳥獣戯画』を読むに書かれている魅力や筆者の主張とを結び付けて捉え直すことで、日本文化の魅力についての自己の考えの形成にもつなげることができる教材であるといえるだろう。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期に学習した説明的な文章「時計の時間と心の時間」を読む学習において、筆者の主張とそれを支える事例の関係を捉えた。また、筆者の主張をもとに「自分は『時計の時間』と『心の時間』のどちらがどのくらい重要だと思うか」について考え伝え合う活動を行った。この活動では、ほとんどの児童が文章に書かれていることを根拠に、それぞれの時間の重要度とその理由を表現することができていた。一方で、文章の解釈に留まっており、自己の経験などと結び付けて考え表現することには課題が見られた。

2学期前半に学習した「デジタル機器と私たち」では、構成を考えて提案する文章を書く活動を行った。ここでは、文末表現に気を付け、事実と意見とを区別して書き表すことについてはほとんどの児童ができていた。一方で約半数の児童が、自分の体験等から見いだした課題と提案内容とが結び付いておらず、筋道の通った文章になっていなかった。そこで、デジタルソフトの付箋機能を活用して情報の整理を行ったり、文書作成ソフトの共有・コメント機能を活用し、単元途中で互いの文章を読み合う場を設け、筋道の通った文章にするためにアドバイスをし合う活動を取り入れたりし、文章の改善を図った。本単元の「書く」学習においても、このような手立てが有効的であると考えられる。

また、「詩を味わおう」の学習では、二つの詩「せんねん まんねん」「名づけられた葉」から、韻や反復、比喩、倒置などの表現の工夫を見つけ、その効果を考える学習を行った。学習後、学習発表会における合唱曲の歌詞にもそれらの表現の工夫が活用されていないか調べようとするなど、学習を生かそうとする姿が見られ、表現の工夫についての興味・関心が高まっている様子である。本教材文においても、筆者の多彩な表現に気付き、表現の工夫を考えることが予想される。

(3) 指導観

指導に当たっては、本学習が「読むこと」と「書くこと」の複合単元であり、「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫を取り入れながら、自分が興味をもった日本文化の魅力を伝える文章を書くという学習の流れやゴールを単元の初めに確認しておく。また、児童の既存の知識や経験を喚起するために、知っている日本文化を単元導入時に出し合い共有したり、日本文化についての図書を学級文庫に位置付けておいたりする。さらに、「『鳥獣戯画』を読む」を読む活動において見つけた筆者の工夫をまとめて掲示しておき、日本文化の魅力を伝える文章を書く際に生かすことができるようにする。

「書くこと」の学習においては、デジタルソフトの付箋機能を活用して情報の整理や構成の検討を行い、伝えたいことに合わせて詳しく書く部分と簡単に書く部分を工夫することができるようにする。また、文書作成ソフトの共有機能を活用し、良いところやアドバイスを互いに伝え合う時間を複数回設け、自身の文章の改善の視点を得られるようにする。

考えの形成に向けては、自分が興味をもった日本文化の魅力を伝える文章を書いたり、その文章を読み合ったりした後に、もう一度「『鳥獣戯画』を読む」の筆者の主張について考える場を設定する。そのような展開にすることで、自身が選択した日本文化の魅力と「『鳥獣戯画』を読む」に書かれている魅力や筆者の主張とを結び付け、その共通点などから自分の考えを広げ表現できるようにしていく。

3 単元の見直し

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1) ク
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ウ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)ク	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ) ② 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) ③ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C(1)オ)	① 粘り強く、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなどして自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況(B)】	「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て
知識・技能①	<p>比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)ク</p> <p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書きだし・文末表現の工夫や、体言止め・省略法(ダッシュ)・擬態法(オノマトペ)等の表現の工夫に気付いている。 <p><ノート記述例></p> <ul style="list-style-type: none"> 「はっけよい、のこった。」と、読み手を引きつける書きだしの工夫をしている。 「…返し技。」「…かわづ掛け。」など、体言止めでスピード感を出している。 「どうだい。」「…見えただろう。」「…と同じだね。」と、読み手の同意を誘う書き方をしている。 	<p>「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読を行い、表現の工夫に着目できるようにする。 表現の一部を抜粋して着目させ、筆者はなぜそのような表現をしたのか問う。 原文(表現を工夫した文)と表現の工夫を抜いた文を示し、読んだ時の感じ方の違いに気付かせる。

<p>思考・判断・表現①</p>	<p>「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C (1) ウ)</p>	<p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論の展開や表現、資料の示し方などについて、筆者の工夫とその意図や効果を考えている。 <p><ノート記述例></p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで学習してきた説明的な文章のように話題提示・問題提示をする「はじめ」の段落が無く、①段落から「中」がスタートしている。さらに、書きだしに「はっけよい、のこった。」と臨場感のある表現を用いることで、冒頭から『鳥獣戯画』の描写や世界観に読み手を引きつける工夫がされている。 筆者は、①～⑦段落で漫画やアニメを例に説明したり、「絵」についての描写を取り上げそれに対する解釈・評価を繰り返したりしている。さらに⑧段落で「絵巻物」の歴史的な価値の解説を加えることで、⑨段落の主張につなげて説得力をもたせようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「絵」や「絵巻物」について説明や解釈している部分と、それらについて筆者が評価している部分とを色分けして線を引かせる。 ⑨段落の筆者の主張につながる叙述に線を引いたり、段落構成図を用いて主張と事例の関係を整理したりするよう促す。
<p>思考・判断・表現②</p>	<p>「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (B (1) ウ)</p>	<p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身の主張につながる部分について、具体的な例を挙げたり資料等を用いたりして、より詳しく書いている。 事実と感想、意見を区別するための文末表現を工夫して書いている。 「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫をもとに、自分が選んだ日本文化の良さを伝える文章の書き方を工夫している。 <p><作品（日本文化のよさを伝える文章）例></p>	<ul style="list-style-type: none"> 選んだもののよさを伝える際、具体的な例や資料等を提示して詳しく説明した方がよい部分とそうでない部分を検討させる。また、事実と感想、意見を区別するうえで、文末表現に着目させる。 「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫を掲示しておき、自身の文章にふさわしい表現を選択して生かすことができるようにする。
<p>書道の心 日本には、書道という、世界にじまんでくる伝統文化がある。 書道については、文字を美しく書くことや、集中力を高めることがよく知られている。それらは、書道を語るうえで欠かせない特長だ。 しかし、私がいちばん伝えたい書道のみりよくは、別にある。それは、「和」の美しさを生かして個性を表現し、世界に伝えることができる点だ。書道では、文字を書くとき、余白の美しさや、筆づかいの強弱、かすれやにじみなどを大切にしている。ただ文字を正しく書くだけでなく、文字の形やリズム、全体のバランスを考えて、一枚の紙に表現する。そのときに生まれる「間」や「余韻」が、日本ならではの美しさなのだ。例えば、「心」という字の作品を見てみよう。どうだ。たった一文字の「心」でも、書く人によって全くちがう表情を見せているね。一つひとつの線に思いをこめて書くことで、自分らしさを表現できるのが、書道のおもしろさだ。 さらに、書道は、日本の文化として、世界に広がっている。今では「SHODO」と呼ばれ、海外でも人気が高い。書道パフォーマンスで大きな紙にダイナミックに字を書く人たちがいたり、美術館で作品として展示されたりしている。墨の黒と紙の白だけで、自分の思いを表現する書道は、日本が世界に誇るアートなのだ。 このように、書道には、日本人が大切にしてきた美しさをもとに個性を表現し、それを世界に伝える力がある。そこにこそ、書道の本当の価値があるのだ。</p>			

「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。

(C (1) オ)

【評価の視点】

- ・「①文章を読んで理解したこと」と、「②既存の知識や理解した内容と結び付けて形成された考え」を書いている。

<ワークシート記述例>

「①文章を読んで理解したこと」

- ・十二世紀という大昔に、漫画やアニメのような、楽しくて自由闊達な作品が生み出されたことは世界的にも珍しく、日本だけでなく世界中の人類の宝でもあるということだと理解しました。
- ・自由闊達に描かれた『鳥獣戯画』に魅力を感じてきた八百五十年もの間の祖先たちが、大切に保存してくれたからこそ今現在にも伝わっており、今だけでなくこれまでの人類にとっての宝でもあるということだと理解しました。

「②既存の知識や理解した内容と結び付けて形成された考え」

- ・「発見、日本文化のみりよく」で、私は「書道」のよさを伝える文章を書きました。書道は、現在、文字としての美しさだけでなく、書く過程のパフォーマンスやアート性についても世界で評価され楽しまれています。これは、『鳥獣戯画』を祖とする漫画やアニメが世界中で楽しまれていることとも共通していると感じました。だから、日本文化は、日本だけでなく「世界の人類の宝」であるともいえると思います。また、他の日本文化についても、「世界の人類の宝」といえるような魅力があるのではないかと思います。
- ・「発見、日本文化のみりよく」で、私は「はねおどり」のよさを伝える文章を書きました。「はねおどり」は、戦時中、その文化が途絶えたものの、復活させたいという願いをもった人々によって引き継がれ今現在も行われていることを知り、それも魅力の一つであると考えました。このことは、『鳥獣戯画』を含む絵巻物が今現在も大切に保存され伝わっていることとも共通すると思います。『鳥獣戯画』も「はねおどり」も時代をこえて「人類の宝」といえるよう、昔の人々の思いを引き継いでいく私たちの使命を感じました。

- ・自分が選択した日本文化のよさを伝える文章を書く活動を通して、筆者の主張と共通していると感じたことや、筆者の主張に対して疑問に思ったことはないかを問い、自分の考えを形成するうえでの手がかりとなるようにする。
- ・文章を書く時の型を提示し、型に当てはめて考えを整理しまとめてもよいと示す。

【『鳥獣戯画』を読む』の筆者の主張（

単元のゴール…
筆者の工夫をとらえて読み、それを生かして書く。

☆筆者の主張はどのような意味か？

①文章を読んで
理解したこと

★自分がみりよくを伝えたい日本文化

★その日本文化のみりよく

「○○」には～という魅力があることがわかり、これは、『鳥獣戯画』の～という魅力とも共通していると書きました。
「○○」にも、『鳥獣戯画』にも共通する魅力は、～です。…
これらの魅力について、(ぼく・私)は、～と(考えます・気付きました)。

《『鳥獣戯画』を読む』学習後》
☆筆者(高畑さん)の主張に対する自分の納得度とその理由

②既有的知識や
理解した内容と
結び付けて
形成された考え

《『発見、日本文化のみりよく』学習後》
☆筆者(高畑さん)の主張に対する自分の納得度とその理由

②既有的知識や
理解した内容と
結び付けて
形成された考え

主体的に学習に取り組む態度①

粘り強く、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなどして自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、日本文化のよさを伝える文章を書くとしている。

【評価の視点】

- ・「発見、日本文化のみりよく」において、自分が選択した日本文化のよさを伝える文章を書くという活動の見通しをもち、そのために、「『鳥獣戯画』を読む」において、筆者の工夫を見つけようとしたり、見つけた工夫を自身の文章に生かそうとしたりしている。
- ・自身の書き表し方の工夫について振り返っていると同時に、他者と交流した際に得た指摘や助言を踏まえて書き表し方をさらに良いものになしようと粘り強く試行錯誤している。

- ・自身が「伝えたい」という思いや目的をもって取り組めるように、日本文化について書かれた本や資料を複数用意して、選択肢を設ける。
- ・文章の途中経過を見せ合い、児童同士で相談や助言、良いところを伝え合う場を設けることで、次に書く内容へのヒントや意欲をもたせる。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書 155 ページの挿絵を見て気づいたことや感じたことを交流したり、『鳥獣戯画』や日本文化について知っていることを出し合ったりする。 ○教材文を読み、『鳥獣戯画』にはどんな魅力があると感じたかを交流する。 ○自分が興味をもった日本文化のよさを効果的に伝える文章を書くために、『鳥獣戯画』を読むの筆者の工夫を捉えるという学習の見通しをもつ。 				
二	3	<ul style="list-style-type: none"> ○絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者は『鳥獣戯画』をどのような価値があると説明しているか整理する。 ○筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について気付いたことをまとめる。 	○			[知識・技能①] <u>ノート</u> ・表現の工夫に気付いているかの確認
	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の中で一番大事な段落（筆者の主張が書かれている段落）を考える。 ○一番大事な段落（⑨段落）と、他の段落に書かれている内容とのつながりを捉える。 ○段落構成の工夫について考える。 ○筆者の工夫の中で、特に効果的だと思った点を理由と共にまとめ、伝え合う。 		○		[思考・判断・表現①] <u>ノート</u> ・筆者の工夫とその意図や効果についての記述の確認
三	6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> ○「発見、日本文化のみりよく」の学習の見通しをもつ。 ○題材を決めて、情報を集める。 ○文章の構成や表現の工夫を考える。 ○日本文化のよさを伝える文章を書く。 ○書いた文章を友達と読みあう。 			○	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>ワークシート（文書作成ソフト）</u> <u>観察</u> ・粘り強く試行錯誤しながら書き表し方の工夫をしているかの確認 [思考・判断・表現②] <u>作品（日本文化のよさを伝える文章）</u> ・考えを伝えるために書き表し方を工夫しているかの確認
四	9 （本時） ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> ○『鳥獣戯画』を読むの筆者の主張についての解釈や自分の考えを書き、交流する。 ○学習を振り返る。 		○		[思考・判断・表現③] <u>ワークシート</u> ・文章を読んで理解したことに基づいて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを記述しているかの確認

6 本時の学習

(1) 本時の目標

『鳥獣戯画』を読む」に書かれている魅力や筆者の主張についての解釈と、自分が興味をもった日本文化の魅力とを結び付けて自分の考えをまとめることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化の魅力を伝える文章を書いて、読み合いました。 ・日本文化にはそれぞれいろんな魅力があり、中には、共通しているものもありました。 	
<p>⊗『鳥獣戯画』を読む」に書かれている魅力や筆者の主張と、自分が興味をもった日本文化の魅力を結び付けて考えをまとめよう。</p>		
2 筆者の主張と、その解釈について交流する。	<p>□『鳥獣戯画』を読む」で筆者は、どのような魅力があると伝え、またどのように主張しているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、『鳥獣戯画』について、「国宝であるだけでなく、人類の宝」であると主張しています。 ・『鳥獣戯画』の魅力は、十二世紀という大昔につくられたものではあるけれど、漫画やアニメのような楽しいモダンなものであることです。 ・のびのびとしていて自由闊達なものであることが魅力です。 ・八百五十年もの間、祖先が大切に保存し、今の私たちに伝えてくれたものであることも魅力の一つです。 <p>○第4・5時の学習内容を掲示しておき、段落構成や筆者の主張について想起することができるようにする。</p>	
3 自分たちが興味をもった日本文化の魅力について交流する。	<p>□魅力のある日本文化は『鳥獣戯画』だけでしょうか。自分たちが興味をもったり調べたりした日本文化には、どのような魅力がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書道は、文字としての美しさだけでなく、書く過程のパフォーマンスやアート性についても世界で評価されていることが分かりました。 ・「はねおどり」は、戦後、「復活させたい」という願いをもった人々によって引き継がれて現在も行われていることを知りました。これも魅力であると考えます。 <p>○第6～8時で作成した日本文化の魅力を伝える文章をもとに、日本文化の魅力を出し合い板書する。その際、共通点分かるように分類して示す。</p>	
4 筆者の主張に対する納得度を再考し、自分が興味をもった日本文化の魅力と結び付けて考えをまとめる。	<p>□自分が興味をもったり調べたりした日本文化の魅力を伝える文章を書いてみて、筆者の主張に対する納得度は変わりましたか。改めて、納得度を書いてみましょう。また、納得度の理由について、「発見、日本文化のみりよく」で自分が伝えた日本文化の魅力と関係</p>	<p>文章を読んで理解したことに基づいて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを記述している。(ワークシート)</p>

<p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>付けながら書いてみましょう。</p> <p>○筆者の主張に対する納得度について、第5時での自身の納得度と比較して考えるように促す。また、改めて定めた納得度の理由について、『鳥獣戯画』を読む』を読んで解釈したことと、自分が文章に書いて伝えた日本文化の魅力とを関係付けながら考え、書き表すことができるようにする。</p> <p>◆個々が選択した日本文化のよさを伝える文章を書く活動を通して、筆者の主張と共通していると感じたことや、筆者の主張に対して疑問に思ったことはないかを問い、自分の考えを形成するうえでの手がかりとなるようにする。</p> <p>◆書きぶりに悩んでいる児童には、以下の型に当てはめて書いてもよいことを示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「○○」には、～という魅力があることがわかり、これは、『鳥獣戯画』の～という魅力とも共通していると思いました。 ・「○○」にも『鳥獣戯画』にも共通する魅力は、～です。… ・これらの魅力について、(ぼく・私)は、～と (考えます・気付きました)。 </div> <p>○本時で書いた文章の内容について、次時で伝え合って共有し、自分の考えをさらに広げたり深めたりするとともに単元全体の学びを振り返っていくという見通しをもつことができるようにする。</p>	
--------------------------------	--	--

(3) 板書計画

スクリーン

※第5時(筆者の主張(⑨段落)と、他段落とのつながりを検討した時)の板書を映し出す。

・自然でのびのび

・自由闊達

・八五十年、祖先たちが大切に保存し伝えてくれた

・世界でも親しまれている

・おもしろい

・技術・心・体が鍛えられる

・シンプル

・自然や素材を生かす

・季節や旬を大切にしている

・個性や表現方法・楽しみ方がいろいろ

・古くからの歴史がある

・受け継ぐ人がいた

・職人のこだわり

『鳥獣戯画』

- ・漫画・アニメの祖
- ・楽しい
- ・とびきりモダン

『自分が紹介した日本文化』

12/19
p.155

『鳥獣戯画』を読む
高畑 勲

『鳥獣戯画』を読む』に書かれている魅力や筆者の主張と、自分が興味をもった日本文化の魅力を結び付けて考えをまとめよう。

《自分が紹介した日本文化の魅力と結び付けて考えたこと》

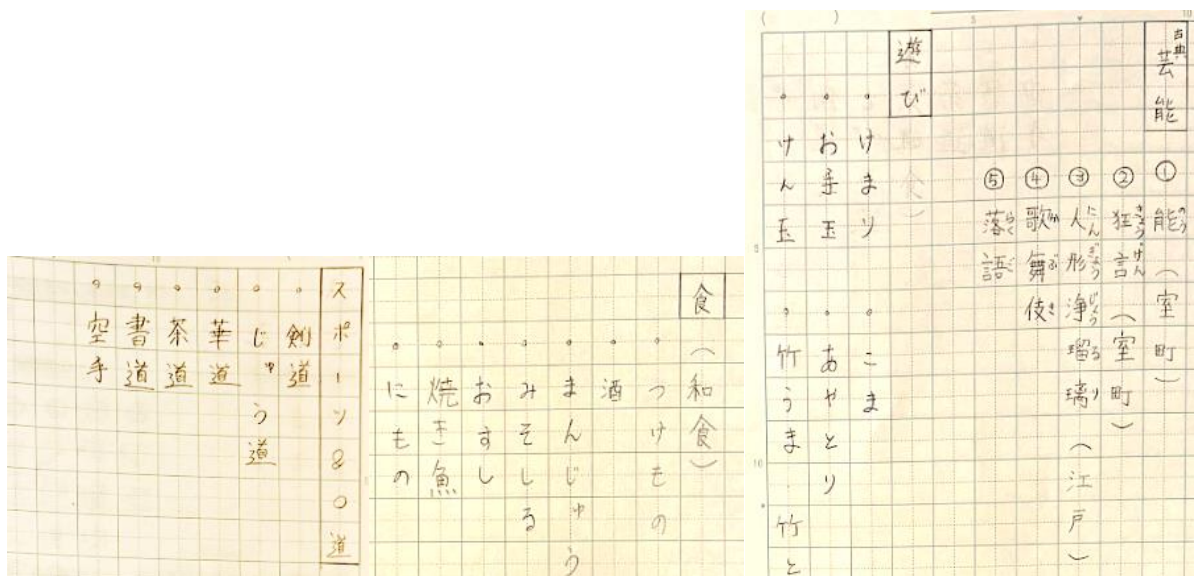
- ・共通点は…
- ・日本文化の魅力とは、…
- ・「人類の宝」といえるかについて、…

7 指導の実際

(1) 指導上の工夫

【第一次】

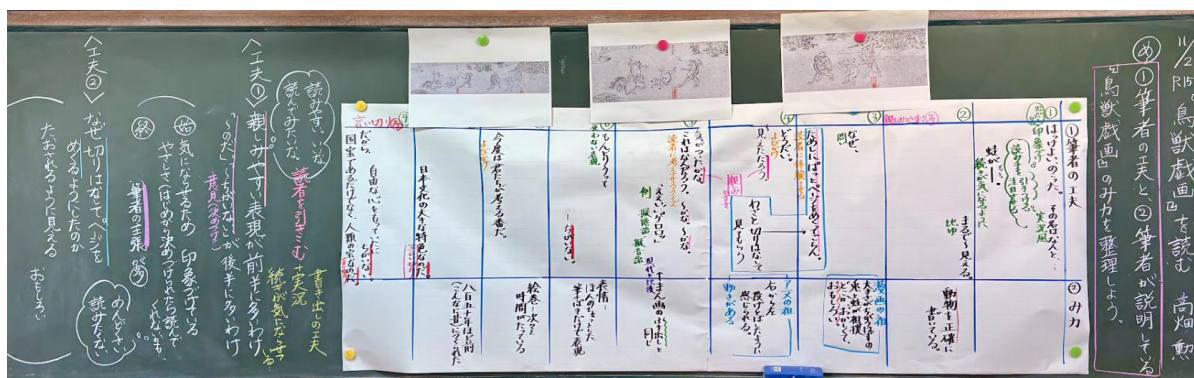
- 単元のゴールを確認し、自分が興味をもった日本文化のよさを効果的に伝える文章を書くために、「『鳥獣戯画』を読む」の筆者の工夫を捉えるという学習の見通しをもつことができるようにした。また、日本文化に関する選書コーナーを設置し、並行読書を行うことができるようにした（付録1 選書リスト参照）。また、前単元の「伝えられてきた文化 古典芸能の世界」と関連付け、どのような日本文化があるか想起させ交流を行った（写真1）。
- 「『鳥獣戯画』を読む」の筆者である高畑勲氏や、『鳥獣戯画』に関わるインターネットサイトを児童が学習端末で閲覧し調べることができるよう、サイトのURLをリストアップしたものを作成し、共有した（付録2 サイトリスト参照）。



(写真1) 日本文化を書きだした児童のノート

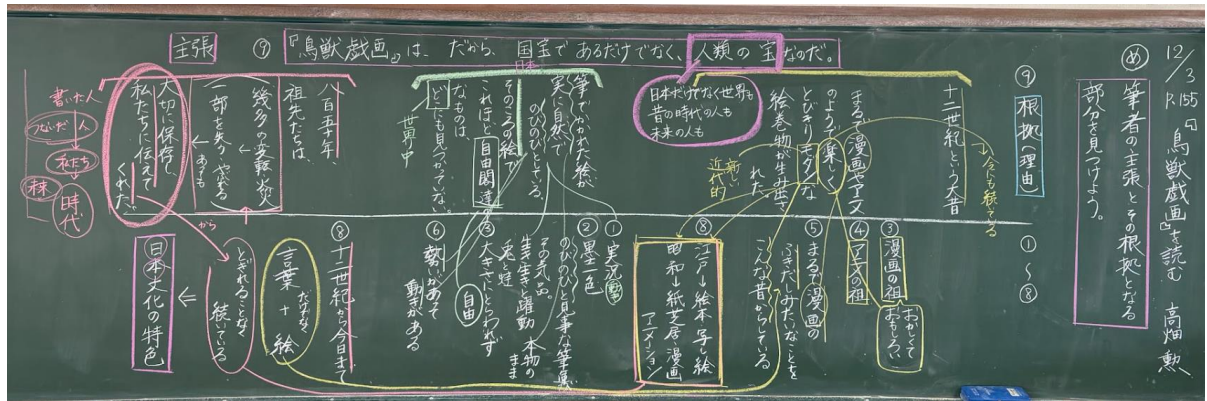
【第二次】

- 第3時では、筆者は『鳥獣戯画』をどのような価値があると説明しているかについてや、それを伝える工夫について気付いたことを整理した（写真2）。



(写真2) 第3時の板書

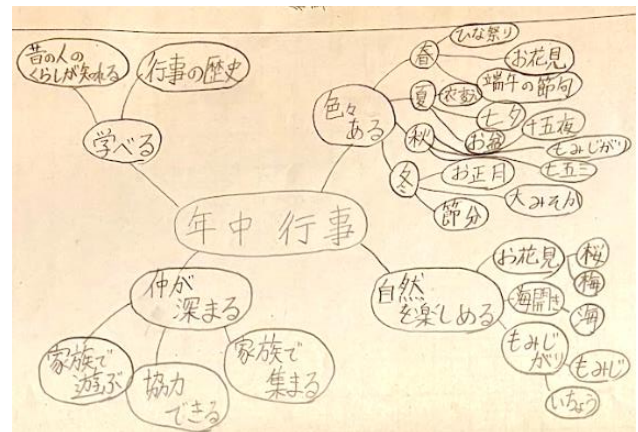
- 第4・5時では、主張が書かれている段落（⑨段落）と、他の段落に書かれている内容とのつながりを捉えた。板書する際、⑨段落の内容を上部、他の段落に関わる内容を下部に示し、上下を対応させたり線をつないで示したりすることで、そのつながりを視覚化した。また、⑨段落に書かれている『鳥獣戯画』の3つの魅力を色分けして示し、色を用いて対応を示す工夫も行った（写真3）。
- 児童は、ノートを見開きで使用し、第4時のノートに付け加える形で第5時の学習内容を記録した。そのようなノートの使用の仕方を促すことで、前時の学びから途切れることなく深めると共に、文章全体の段落構成の工夫や、主張と事例の関係について俯瞰して捉えることができるようにした。



(写真3) 第5時の板書

【第三次】

- 自分がよさを伝える日本文化を決めて情報を集める際、自分が考えるその日本文化の魅力について、イメージマップを用いて情報を関連付けたり広げたりした（写真4）。



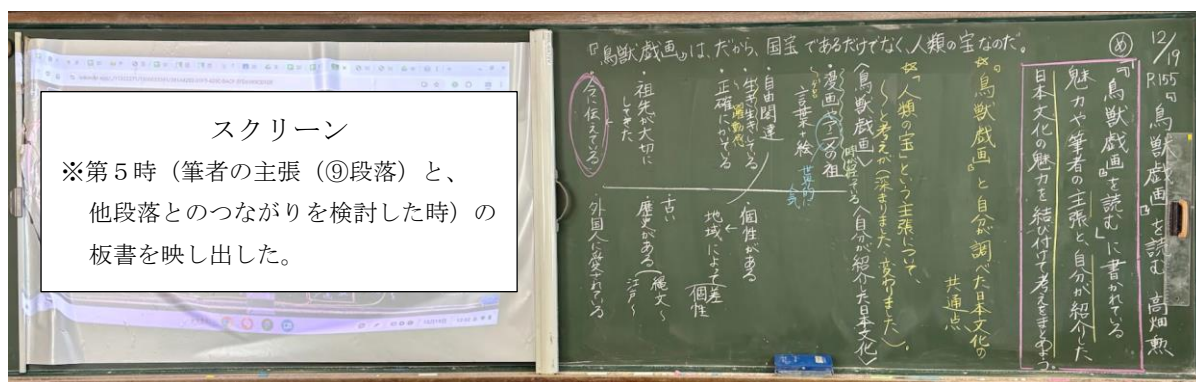
(写真4) イメージマップ

◎	○	○	○	◎
学べる	仲が深まる	自然を楽しむ	色々ある	◎
の歴史を知れる。	年中行事を楽しくしながら、いつ始まったのかなど	お花見や、もみじがりなどの行事では外に出る↓自然にふれあい、楽しめる。	1ヶ月に一度は必ずあり、色んなジャンルのものがある。	◎
歴史を知れる。	お正月、お盆などでは家族が集まる。↓仲が深まる。	お花見、桜、梅、もみじ、もみじ、いちご	春、夏、秋、冬、お正月、お盆	◎

(写真5) 理由や事例を整理した表

- イメージマップを用いて関連付けたり広げたりした情報の中から、特に伝えたい魅力を選択し、表を用いて、自分の考えを支える理由や事例を整理した。また、簡単に書く部分と詳しく書く部分の検討を行った（写真5）。
- 学習端末を用いて、構成メモの作成を行った。その際、カード機能を用いて、「初め」「中」「終わり」や、簡単に書く部分と詳しく書く部分を色分けして示すように促し、それらを意識して書く内容を考えたり、カードを動かして構成を検討したりすることができるようにした（図1）。

- ・ 黒板のスクリーンには、第5時の板書を映し出し、筆者の主張や、それを支える理由と事例について想起することができるようにした（写真6）。



（写真6） 第9時の板書

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

ア 筆者の表現の工夫を見つけることが難しい児童への手立て

- ・ 「『鳥獣戯画』を読む」において、筆者が『鳥獣戯画』の評価をしている部分や、表現の工夫をしている部分について教材文に色分けして線を引くように促した。また、線を引いた部分を学習端末で共有し、他の児童が見つけた部分も閲覧することができるようにすることで、自身の気づきに生かすことができるようにした（図3）。



（図3） 児童が色分けして線を引いた教材文

イ 自分がよさを伝える日本文化を選択したり、そのよさについての情報を収集し整理したりすることが難しい児童への手立て

- ・ 学級の選書コーナーに用意した日本文化に関する図書や、リストアップして示したインターネットサイトをもとにして、日本文化を選択することができるようにした。選書コーナーの図書は、絵本や図鑑など、様々な形式で書かれ、また児童が興味をもっていると考えられる様々な日本文化を扱うことができるよう配慮して設置した。
- ・ 選んだ資料を、個別の支援が必要な児童と共に読んだり必要に応じて内容を解説したりし、魅力を見つけることができるようにし、前述の（写真4）（写真5）のワークシートに整理する活動に生かした。

ウ 伝えたいことに合わせて簡単に書いたり詳しく書いたりすることが難しい児童や、表現の工夫を取り入れて効果的な文章を書くことが難しい児童への手立て

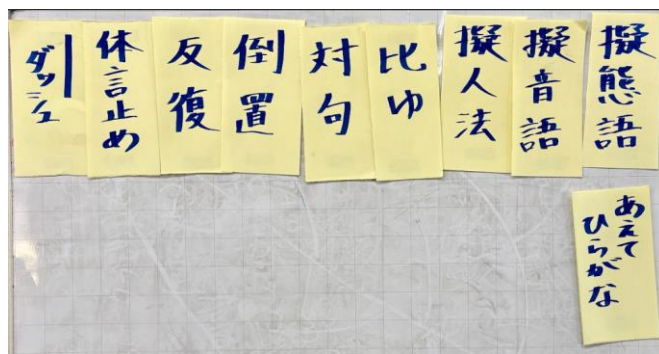
- ・ 前述の（写真5）のワークシートの上部に、簡単に書く部分と詳しく書く部分の検討しマークを付ける欄を設けた。悩んでいる児童には個別に声をかけ、自分が特に伝えたいと思う魅力を尋ねて引き出したり、読み手に驚きや新たな知見を与えそうな魅力について検討するよう助言したりした。
- ・ 前述の（図1）のように、学習端末を用いて色分けしたカードを使って構成メモを考えた。構

成メモを考える前には、教科書に例示されている「和食の心」をもとに、段落構成や簡単に書いている部分と詳しく書いている部分、具体例などを捉え、本文に色分けした線を引いて視覚化し、自身の文章構成や書き表し方を考える際の手がかりとしても良いことを示した(図4)。また、構成メモから文章を書く段階に入る前に見合う時間を設け、児童が互いに相談や助言を行うことができるようにした。

- これまでの単元で学習した修辭法や、第2次で見つけた筆者の工夫を掲示し、自身の文章に生かすことができるようにした(写真7①②)。また、学習端末を用いて作成した文書を共有し、児童同士で助言し合う場を設け、文章の改善を図った。



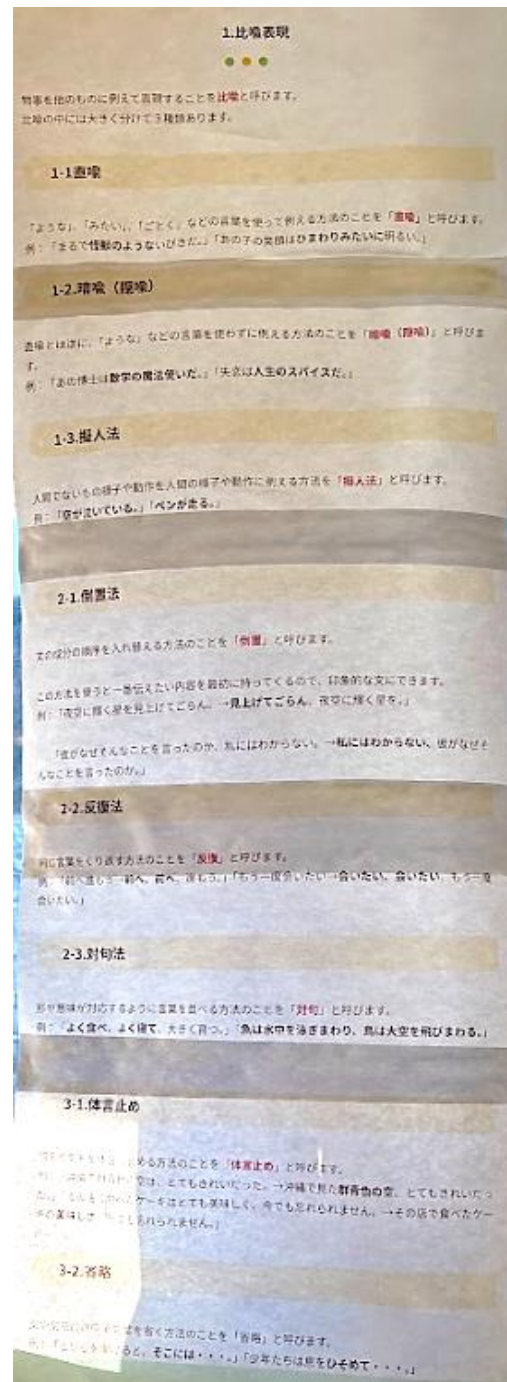
(図4) 色分けして線を引いた教科書の作例



(写真7①)

『鳥獣戯画』を読むで見つけた筆者の工夫の一部をカードにした物の掲示

裏にマグネットを付けたカードにしておくことで、『鳥獣戯画』を読むの本文や、「発見、日本文化のみりょく」の作例における表現の工夫を見つけ整理することに用いたり、他教科・他単元で読んだり書いたりする際にも、これらの技法についての着目を促すのに活用したりすることができるようにした。



(写真7②)

これまでの単元で学習した修辭法の掲示

エ 文章を読んで理解したことと、既存の知識や理解した内容と結び付けて考えることが難しい児童への手立て

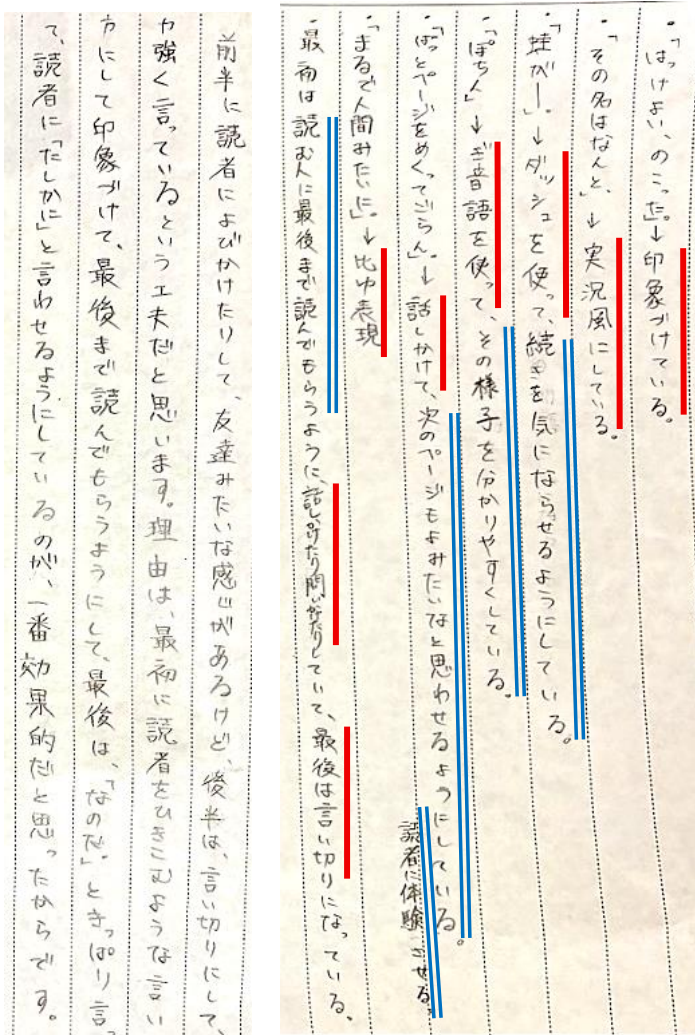
- ・ 前述の（図2）の通り、ワークシートの形式を工夫した。その上で、考えの形成時に課題が見られた児童には、机間指導の際に、「『鳥獣戯画』と、自分が選んだ日本文化の魅力の共通点はあるかな？」「自分が選んだ日本文化は、“人類の宝”と言える？」などと個別に声をかけ、筆者の主張について自分が選択した日本文化の魅力と結び付けて考えることができるようにした。

8 評価の実際

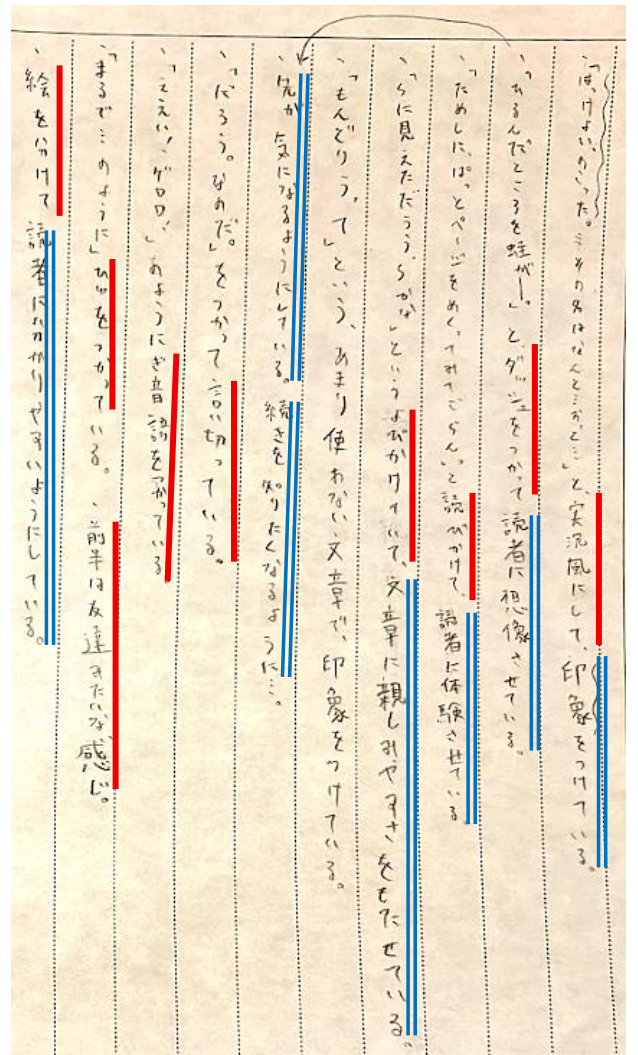
(1) 評価の具体

知識・技能①：

比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1) ク)



(写真 8 ②) (写真 8 ①)
「十分満足できる」状況 (A) に
あると評価した児童のワークシート



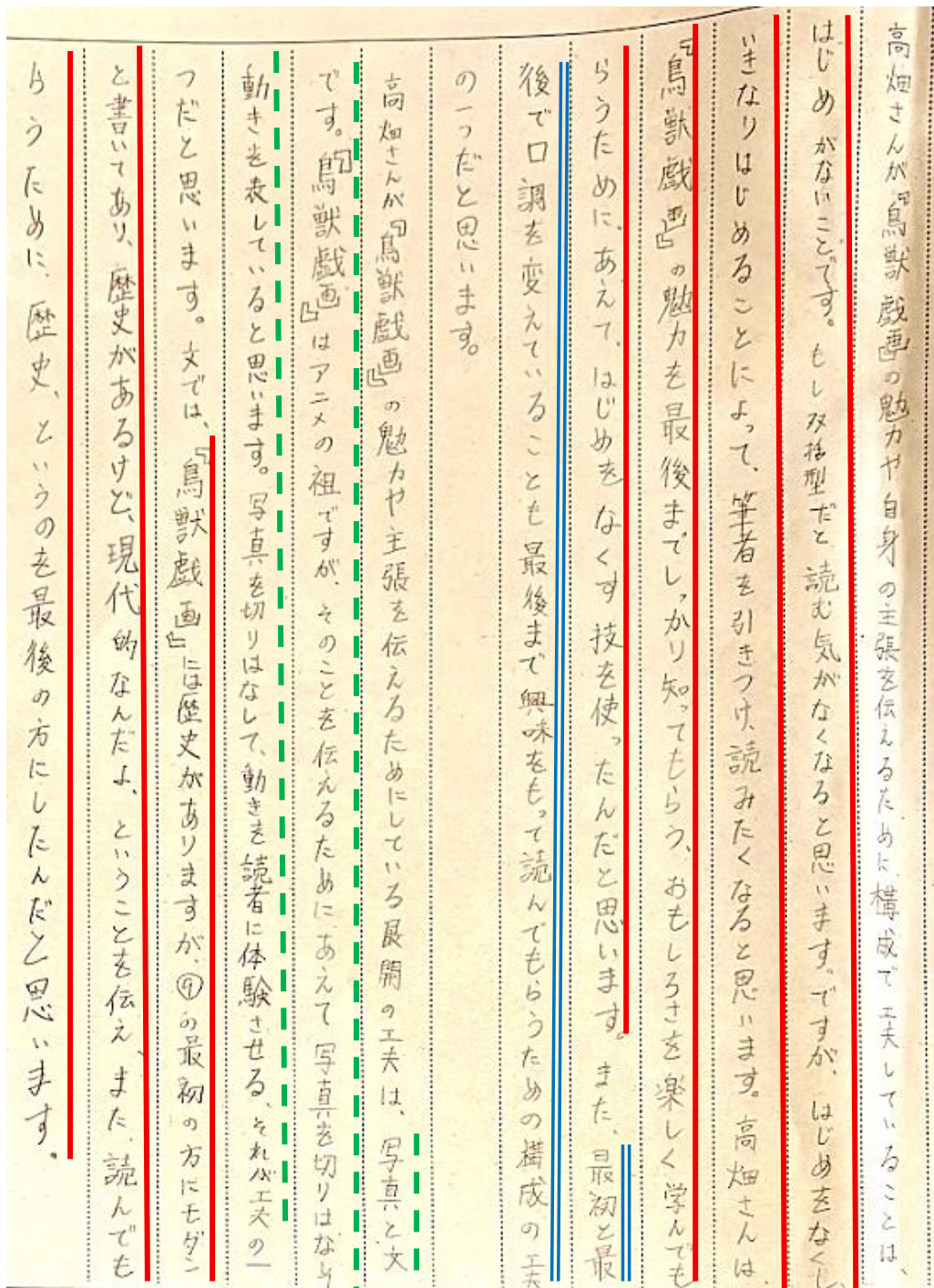
(写真 9 「おおむね満足できる」状況 (B) に
あると評価した児童のワークシート)

「十分満足できる」状況 (A) (写真 8 ①②)
『鳥獣戯画』を読むの表現の工夫の箇所を引用し、どのような工夫をしているか (赤線部)とその効果 (青二重線部)をまとめた上で (写真 8 ①)、論の展開と表現の工夫との結び付きについて気付いている。(写真 8 ②)。

「おおむね満足できる」状況 (B) (写真 9)
『鳥獣戯画』を読むの表現の工夫の箇所を引用し、どのような工夫をしているか (赤線部)とその効果 (青二重線部)をまとめている。

思考・判断・表現①：

「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C (1) ウ)



(写真10 「十分満足できる」状況 (A) にあると評価した児童のワークシート

「十分満足できる」状況 (A)

(写真10)

『鳥獣戯画』を読むの論の展開や表現、資料の示し方などについて、筆者の工夫とその意図や効果の複数を挙げて考えている。

本児童は、

①「はじめ」が無く、前半で現代とのつながり、後半で『鳥獣戯画』の長い歴史を説明している工夫 (赤線部)

②前半と後半で文末表現を変えている工夫 (青二重線部)

③写真を切り離して見せるなどの資料の示し方の工夫 (緑波線部)

について、筆者の意図や効果を考えることができていたため、「十分満足できる」状況 (A) と評価した。

高畑さんが、『鳥獣戯画』の魅力や自身の主張を伝えるために、構成や展開でしている工夫は、最初に歴史を説明するのではなく、現代につながっているよという説明をしていることだ。三段落から七段落では、漫画の祖というワードを出したり、アニメの祖だとわかってもらうためのわざと切りはなして見せたりしている。しかも、歴史の説明に入る前の七段落では、読者に考えを促している。その後、八段落では、とてもふかい歴史があると、説明をしている。はじめの方では、現代に関して、最後に歴史などの難しいことを書いています。

(写真 11 「おおむね満足できる」状況 (B) にあると評価した児童のワークシート

「おおむね満足できる」状況 (B)

(写真 11)

『鳥獣戯画』を読むの論の展開や表現、資料の示し方などについて、筆者の工夫とその意図や効果を考えている。

本児童は、

前半で、『鳥獣戯画』が漫画やアニメの祖であるという現代とのつながりを説明し、後半で『鳥獣戯画』の長い歴史を説明している工夫 (赤線部)

について、筆者の意図や効果を考えていた。記述はやや言葉足らずであるが、発言等も含め「現代とのつながりを前半に説明することで読者の興味を引き、比較的かたい内容である『鳥獣戯画』の歴史的な価値についての解説を後半に持つことで、筆者の主張に対する納得度を高めている」ということを捉えていたため、「おおむね満足できる」状況 (B) と評価した。

思考・判断・表現②：

「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)



大切に続けられてきた『年中行事』
名前

「ゴーン、ゴーン。」
「除夜の鐘」が鳴っている。一月一日、深夜零時。多くの人がお正月と答えるだろう。お正月は、日本でも古くから伝わる『年中行事』の一つなのだ。皆さんは、『年中行事』を知っているかな。年中行事は、平安時代から続く、日本文化なのだ。そんな年中行事には様々な魅力がある。

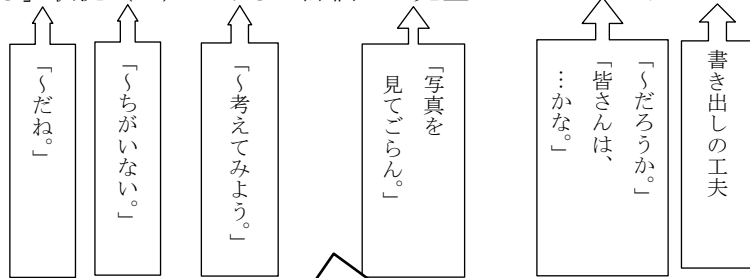
年中行事の魅力といえば、やはりその行事の多さではないだろうか。年中行事と聞くと、お正月であつたり、ひな祭りであつたり、色々な行事を思い浮かべるだろう。また、そんな行事とともに、たくさんの自然が味わえるのは、日本ならではの。上の①、②の写真を見てもらえ。例えば、お花見では、桜、梅、桃。紅葉狩りでは、紅葉、いちじくなど、たくさんの自然と触れ合うきっかけになるのだ。

こんなに魅力がある年中行事の中で、私が伝えたい魅力は別にある。それは「仲が深まる」という魅力だ。年中行事は家族が集まり、協力したり、遊んだりすることができるのだ。お正月、お盆を例に考えてみよう。お正月は、新年の始まりを祝う行事。家族で集まり、おせちを食べたり、初詣に行ったりする家庭は多いのではないかな(写真③)。また、こまやカルタ、たこあけで遊ぶ家庭もあるだろう(写真④)。そんなお正月は、家族や親戚との仲が深まるにちがいない。お盆も一緒だね。お盆は、故人を偲ぶ行事。墓参り、盆踊りを通して、家族の絆が深まると考える。

また、年中行事には「楽しみながら学べる」という魅力もあるのだ。七夕には、伝説がある。織姫(ペガ)と彦星(アルタイル)の伝説を楽しみながら学んだり(写真⑤)、お正月では、おせちやお雑煮という和食から、日本の食べ物についての歴史も知れるのだ。十五夜では、月について、いつ満月になるのか、月には何がかいてあるのか(写真⑥)、そんなところから調べるきっかけにつながる。

このように、年中行事は、家族との仲が更になまったり、楽しみながら学べたりする魅力がある。実際に、年中行事で、親戚の人と仲が良くなったり、新しい学びを得たりした経験があるのではないだろうか。平安時代から、今まで、こんなにも仲が深まり、楽しく学べる文化が伝わってきたおかげである。そんな年中行事を大切に、行っていくことが、年中行事を伝えていくことに繋がるのではないだろうか。

(図5) 「十分満足できる」状況(A)にあると評価した児童のワークシート



「十分満足できる」状況(A) (図5)

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりし、自身の主張につながる部分については、具体的な例を挙げたり資料等を用いたりして、より詳しく書いている。

事実と感想、意見を区別するための文末表現を工夫して書いている。

「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫を複数用いて、自分が選んだ日本文化の良さを伝える文章の書き方を工夫している。

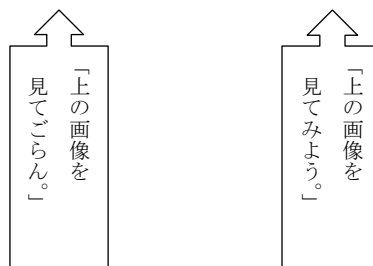
本児童は、自身が選択した日本文化について、

- 自身の伝えたいことに合わせて、簡単に書く部分(黄緑枠部)と、詳しく書く部分(橙枠部)を考え、書き表し方を工夫している。また、必要に応じて具体例を挙げたり資料等を用いたりして、詳しく書いている。
- 事実を表す文末表現「〜だ。」や、感想や意見を表す文末表現「〜だろう。」「〜ちがいない。」などを使い分け、工夫して書いている。
- 矢印枠で示したような「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫を複数用いて、書き方を工夫している。
- 選択した日本文化の魅力の説明だけでなく、日本文化を未来に受け継いでいくための自身の考えや読者への呼びかけを書いている(赤枠部)。

以上のことを踏まえ、「十分満足できる」状況(A)と評価した。

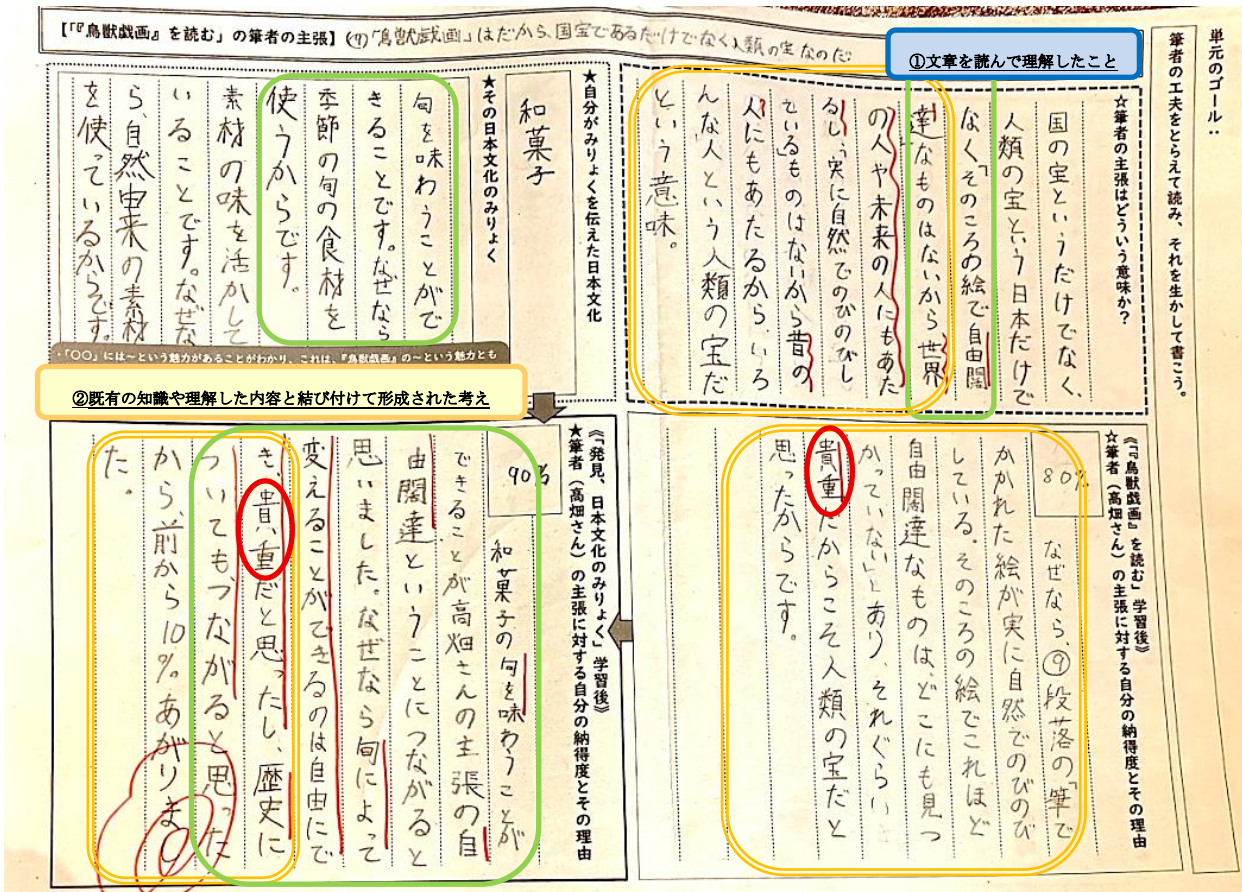


(図6)「おおむね満足できる」状況 (B) にあると評価した児童のワークシート



「おおむね満足できる」状況 (B) (図6)
 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。
 「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫をもとに、自分が選んだ日本文化の良さを伝える文章の書き方を工夫している。

本児童は、自身が選択した日本文化について、
 ・自身の伝えたいことに合わせて、簡単に書く部分(黄緑枠部)と、詳しく書く部分(橙枠部)を考え、書き表し方を工夫している。また、必要に応じて具体例を挙げたり資料等を用いたりして、詳しく書いている。
 ・文末表現「～だ。」「～のだ。」を用いて、工夫して書いている。
 ・矢印枠で示したような「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫を用いて、書き方を工夫している。
 以上のことを踏まえ、「おおむね満足できる」状況 (B) と評価した。



(写真 13 「おおむね満足できる」 状況 (B) にあると評価した児童のワークシート)

「おおむね満足できる」状況 (B)

(写真 13)

「①文章を読んで理解したこと」と、「②既有的知識や理解した内容と結び付けて形成された考え」を書いている。

本児童は、右上欄に「①文章を読んで理解したこと」を書いたうえで、左下欄に「鳥獣戯画」と、自身が調べ発信した日本文化である『和菓子』との共通する魅力を書いている（黄緑枠部）。また、その共通する魅力をもとに、筆者の主張にある「人類の宝」について考えている（橙枠部）。記述はやや言葉足らずであるが、「世界を見渡しても、そのころの絵で、これほど自由闊達なものはどこにも見つかっていない。」という教材文の1文に着目し、「人類の宝」＝「日本だけではなく世界の人々にとっても宝である」「今までの人々にとっての宝であるとともに未来の人々の宝ともなり得る」と捉えたことがわかる。また、「和菓子」は、季節に応じて形や材料が異なり、旬を味わうことができる点を魅力と捉え、「鳥獣戯画」の自由闊達である特長と共通すると考えている。自由闊達であるという日本文化に共通する魅力を発見し、それが“貴重”（赤丸部）であると感じたため、筆者の主張に対する納得度がより高まったということが記述からわかる。

これらのことを踏まえ、「おおむね満足できる」状況 (B) と評価した。

主体的に取り組む態度①：

粘り強く、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなどして自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

【推敲前】



年中行事

名前

「ゴーン、ゴーン。」
 一月一日、深夜零時。除夜の鐘が鳴っている。除夜の鐘、と聞くに皆さんは何を考えるだろうか。多くの人がお正月と答えるだろう。お正月は、日本で古くから伝わる『年中行事』の一つである。皆さんは、『年中行事』を知っているだろうか。皆さんは、平安時代から続く、日本文化だ。そんな年中行事には様々な魅力がある。

年中行事の魅力といえば、やはりその行事の多さではないだろうか。年中行事と聞くと、お正月であったり、ひな祭りであったり、色々な行事を思い浮かべるだろう。また、そんな行事とともに、たくさんさんの自然が味わえるのは、日本ならではの。例えば、お花見では、桜や梅、桃、紅葉狩りでは、紅葉やいちじょうなど、たくさんさんの自然と触れ合うきっかけになるのだ。

こんなに魅力がある年中行事の中で、私が伝えたい魅力は別にある。それは、仲が深まる、という点だ。年中行事は家族が集まり、協力したり、遊んだりすることができるのだ。お正月、お盆を例に考えてみよう。お正月は、新年の始まりを祝う行事。家族で集まり、おせちを食べたり、初詣に行く家庭は多いのではないかと。また、こまや羽つき、たこあげで遊ぶ家庭もいるだろう。そんなお正月は、家族や親戚との仲が深まると考える。お盆も一緒だ。お盆は、故人を偲ぶ行事。墓参り、盆踊りを通して、家族の絆が深まると考える。

また、年中行事には、楽しみながら学べる、という点もあるのだ。七夕には、伝説がある。織姫（ヘガ）と彦星（アルタイル）の伝説を楽しみながら学んだり、お正月では、おせちやお雑煮という和食から、日本の食べ物についての歴史も知れる。十五夜では、月について、いつ満月になるのか、月には何が掛かっているのか、そんなところから調べるきっかけにつながる。と考える。

このように、年中行事は、家族との仲が更に深まったり、楽しみながら学べるのだ。実際に、年中行事で、親戚の人と仲が良くなった、学べた経験があるのではないだろうか。平安時代から、今まで、こんなに仲が深まり、楽しく学べる文化が伝わったのは、昔の人々が、日本中に広め、大切に伝えてきたおかげである。そんな年中行事を大切に、行っていくことが、年中行事を伝えることに繋がるのではないかと。

(図 7)

【推敲後】



大切に続けられてきた『年中行事』

名前

「ゴーン、ゴーン。」
 一月一日、深夜零時。「除夜の鐘」が鳴っている。「除夜の鐘」と聞くに皆さんは何を考えるだろうか。多くの人がお正月と答えるだろう。お正月は、日本で古くから伝わる『年中行事』の一つなのだ。皆さんは、『年中行事』を知っているだろうか。皆さんは、平安時代から続く、日本文化なのだ。そんな年中行事には様々な魅力がある。

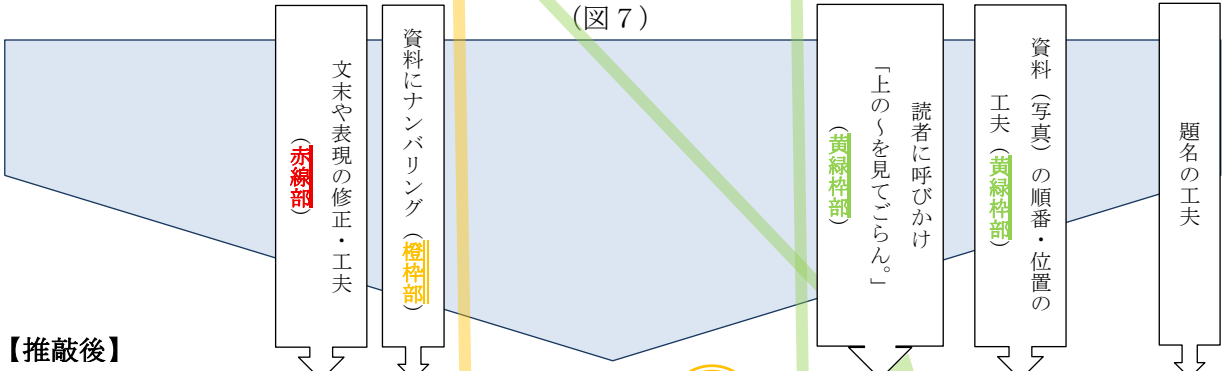
年中行事の魅力といえば、やはりその行事の多さではないだろうか。年中行事と聞くと、お正月であったり、ひな祭りであったり、色々な行事を思い浮かべるだろう。また、そんな行事とともに、たくさんさんの自然が味わえるのは、日本ならではの。上の①、②の写真を見てもらえ。例えば、お花見では、桜、梅、桃。紅葉狩りでは、紅葉、いちじょうなど、たくさんさんの自然と触れ合うきっかけになるのだ。

こんなに魅力がある年中行事の中で、私が伝えたい魅力は別にある。それは「仲が深まる」という魅力だ。年中行事は家族が集まり、協力したり、遊んだりすることができるのだ。お正月、お盆を例に考えてみよう。お正月は、新年の始まりを祝う行事。家族で集まり、おせちを食べたり、初詣に行ったりする家庭は多いのではないかと写真③。また、こまやカルタ、たこあげで遊ぶ家庭もあるだろう(写真④)。そんなお正月は、家族や親戚との仲が深まるにちがいない。お盆も一緒だね。お盆は、故人を偲ぶ行事。墓参り、盆踊りを通して、家族の絆が深まると考える。

また、年中行事には「楽しみながら学べる」という魅力もあるのだ。七夕には、伝説がある。織姫（ヘガ）と彦星（アルタイル）の伝説を楽しみながら学んだり(写真⑤)、お正月では、おせちやお雑煮という和食から、日本の食べ物についての歴史も知れるのだ。十五夜では、月について、いつ満月になるのか、月には何が掛かっているのか(写真⑥)、そんなところから調べるきっかけにつながる。と考える。

このように、年中行事は、家族との仲が更に深まったり、楽しみながら学べたりする魅力がある。実際に、年中行事で、親戚の人と仲が良くなった、新しい学びを得たりした経験があるのではないだろうか。平安時代から、今まで、こんなにも仲が深まり、楽しく学べる文化が伝わったのは、昔の人々が、日本中に広め、大切に伝えてきたおかげである。そんな年中行事を大切に、行っていくことが、年中行事を伝えることに繋がるのではないかと。

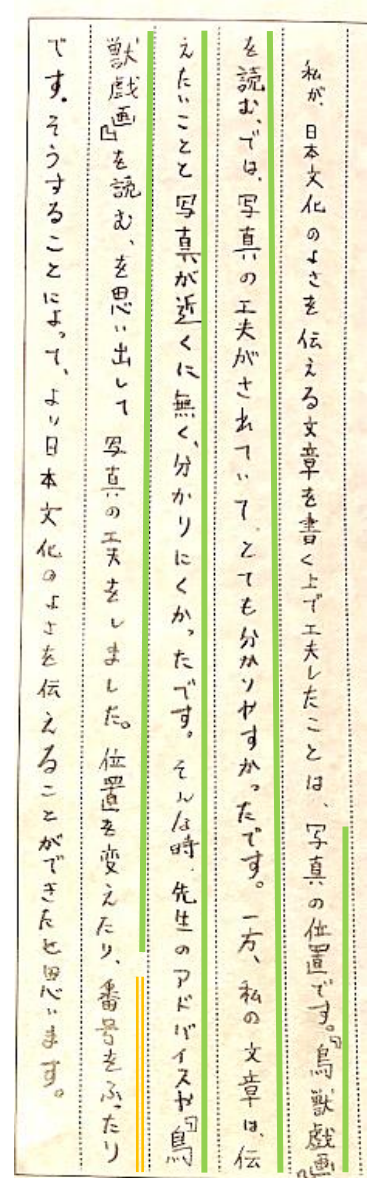
(図 8)



「十分満足できる」状況 (A)

(図7) (図8) (写真14)

自身の書き表し方の工夫について具体的に振り返っているととも
に、「『鳥獣戯画』を読む」において見つけた筆者の工夫を自身の文
章に生かそうとしたり、他者と交流した際に得た指摘や助言を踏まえ
て書き表し方をさらに良いものにしたりしようと粘り強く試行錯誤
している。



(写真 14)
児童の振り返り

【推敲前】



和菓子の魅力

名前

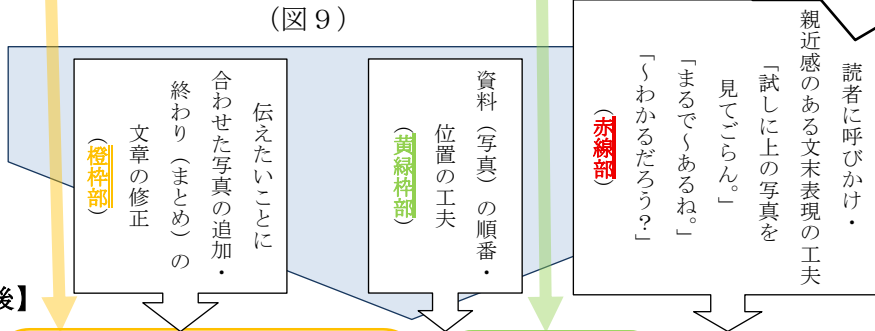
日本には、縄文時代から今まで長く続いている和菓子という食べ物がある。和菓子には健康的で心身を癒やす効果がある、植物性の食べ物、米、大豆などがよく使われている。そのおかげで食物繊維が豊富で低カロリーだ。たとえば今でもおやつなどとして食べられているどら焼きのあんこには食物繊維が豊富で、エネルギーを手軽に摂取できる。他にも、和菓子は季節の見た目の表現をしているものもある。試しに上を見て。これは桜が春、ひまわりが夏、もみじが秋、雪だるまが冬をイメージして作っているのだろうか。たしかものだ。

だが、私がみなさんに知ってほしい魅力は他にある。それはお茶との相性が良く、心を安らげ落ち着かせてくれるという魅力だ。和菓子は優しい甘さで心を安らげ落ち着かせてくれる、和菓子の食材本来の風味とお茶の渋さが和菓子の味を引き締めるという絶妙な関係だ。その他にも優しい香り、もちもち、サクサク、ねっとりなどいろいろな触感があるのも心身を癒やしてくれるだろう。

このように、和菓子は見た目の美しさと優しい甘さで心を安らげ落ち着かせてくれるという魅力があり、それにこそ和菓子の本当の価値があるのだ。

本児童は、「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫である「呼びかけ」や「親しみ法（親近感のある文末表現）」を用いて、自身の文章の書き表し方を工夫していた（赤線部）。また、振り返りに記述は無いものの、文章を自身で見直したり他者からの指摘や助言を受けたりする中で、伝えたいことに合わせて資料を加えたり（橙枠部）、資料の位置を改善したり（黄緑枠部）する工夫が見られた。これらのことを踏まえ、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した。

(図 9)



【推敲後】

和菓子の魅力

名前

日本には、縄文時代から今まで長く続いている和菓子という食べ物がある。和菓子は、健康的で心身を癒やす効果がある植物性の食べ物、米、大豆などがよく使われている。そのおかげで食物繊維が豊富で、カロリーが低いのだ。例えば、今でもおやつなどとして食べられているどら焼きの中にあるあんこは、食物繊維が豊富でエネルギーも手軽に摂取できるという良さがある。

他にも、和菓子は季節それぞれの見た目を表現しているという特長がある。試しに上の写真を見て。これは、まです本物のような、桜、ひまわり、紅葉、雪だるまの和菓子があるね。これは桜が春、ひまわりが夏、もみじが秋、雪だるまが冬をイメージしているのわかるだろうか？ たしかものだ。

だが、私がみなさんに知ってほしい魅力は他にある。それは、和菓子はお茶との相性が良く、心を安らげ落ち着かせてくれるという魅力だ。和菓子は、優しい甘さで心を安らげ落ち着かせてくれる。また、お茶の渋さが和菓子の味を引き締めたり、お茶の旨味を和菓子の食材本来の甘さが引き締めたりしてくれたりする絶妙な関係にある。その他に、優しい香りであることや、もちもち、サクサク、ねっとりなど、いろいろな魅力があることも、心身を癒やすという魅力につながっているだろう。

このように、和菓子はお茶と相性の良い優しい甘さや、様々な食感で心を安らげ落ち着かせてくれるという魅力がある。それにこそ、和菓子の本当の価値があるのだ。

(図 10)

よひかけや親しみ法などで、おんはか読んでいて興味かわる文と作ることをかんばった。そのおかげで下書きの時よりモ読者とひまきするこびである文章になつたと思ふ。

(写真 15)

児童の振り返り

「おおむね満足できる」状況（B）(図 9) (図 10) (写真 15)

「『鳥獣戯画』を読む」において見つけた筆者の工夫を自身の文章に生かそうとするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方をさらに良いものにしようと粘り強く試行錯誤している。

(2) 児童の評価

	評価規準	「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C)
知識・技能	① 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク)	16人	13人	2人
思考・判断・表現	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ)	10人	15人	6人
	② 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	7人	19人	5人
	③ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	13人	15人	3人
主体的に学習に取り組む態度	① 粘り強く、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなどして自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。	9人	19人	3人

9 成果と課題

(1) 成果

- ・ 「知識・技能①」「思考・判断・表現①」について、筆者が『鳥獣戯画』の評価をしている部分や、表現の工夫をしている部分について教材文に色分けして線を引くようにしたり、それらを構造的に板書したりすることで、多くの児童が表現の工夫に気付いたり、論の進め方の工夫について考えたりすることができていた。
- ・ 「思考・判断・表現②」について、ワークシートの形式を工夫したり、学習端末のカード機能を活用したりすることで、「書くこと」における段落構成の工夫や、伝えたいことに合わせて簡単に書いたり詳しく書いたりする工夫を促すことができた。「『鳥獣戯画』で読む」で見つけた筆者の工夫を掲示したり、例文の構成を色分けして示したりしたことが、文章の書き表し方を工夫する手助けとなった。
- ・ 「思考・判断・表現③」について、自分が選択した日本文化の魅力を伝える文章を書く活動の後に考えの形成の場を設けることで、自身が選択した日本文化の魅力と『鳥獣戯画』の魅力や、筆者の主張とを結び付けて考えをもつことができていた。また、ワークシートの形を工夫し、第5時の考えと第9時の考えを比較することができるようにすることで、筆者の主張に対する自身の考えの深まりや変化を実感しやすくすることができた。
- ・ 「主体的に取り組む態度①」については、単元の導入時に「『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫をいかして書くという見通しをもたせていたため、「『鳥獣戯画』を読む」を読む際に主体的に筆者の工夫を見つけ、自分が選択した日本文化の魅力を伝える文章を書く際に生かそうとする児童が見られた。また、構成メモや書いた文章を互いに読みあう場を設けることで、他者の文章の工夫を取り入れようとしたり、アドバイスをし合う姿が見られたりした。

(2) 課題

- ・ 「思考・判断・表現①」について、本文中の筆者の工夫の部分を見つけることはできているものの、その意図や効果について考えることに努力を要する児童が一定数いた。どのような意図や効果があるのかについて、個別に声をかけて考えを促す助言を行ったり、他者と交流する時間を設けたりすることが改善策として考えられる。
- ・ 「思考・判断・表現②」について、自身が選択した日本文化の魅力の具体（具体例や事例）は挙げられるものの、その魅力を抽象的に表現することに難しさを感じている児童が見られた。これは、「書くこと」における「構成の検討（B（1）イ）」につまずきがあることが考えられる。本単元での「書くこと」における重点目標は「考えの形成、記述（B（1）ウ）」であったが、「書くこと」について努力を要する児童に対しては、そのつまずきを見取り、場合によっては題材の設定や情報の収集、構成の検討について個に応じた支援を一層行う必要があると感じた。
- ・ 「思考・判断・表現③」について、「『鳥獣戯画』を読む」の筆者の主張に対する納得度を再考し、自分が興味をもった日本文化の魅力と結び付けて考えをまとめる活動を設定した。その結果、自身が選択した日本文化の魅力と『鳥獣戯画』の魅力とを結び付け、共通点を見いだしたり、「日本文化の魅力」について考えを深めたりすることはできていたものの、納得度の説明の際に、筆者の主張にある“人類の宝”についての考えを深めることができていない児童が見受けられた。「“国宝”と“人類の宝”は何が異なるのか。」や、「自分が選択した日本文化は、“人類の宝”と言えるのだろうか。」などと補助発問や個別に声かけを行うことが改善策として考えられる。

(3) 今後に向けて

- ・ 説明的な文章の「読むこと」における「考えの形成（C（1）オ）」を重点に単元計画や授業づくりを行う中で、「文章を読んで理解したこと」と「既存の知識や理解した内容と結び付けて形成された考え」について、授業者がその違いを理解し、扱う単元や教材においてどのような児童の姿が見られると良いのかを想定しておくことが大切だと分かった。考えを形成するに当たっては、文章を読んで理解したことと、自身の経験・体験や既存の知識とを結び付けることが基盤となる。本実践において、自分が選択した日本文化のよさを伝える文章を書いた後に「考えの形成」の場を位置付けたように、学習者が教材や筆者の主張に対して実感を伴って理解を深め、結び付けて考えられるような体験・経験や知識を得られる場を意図的に設けることが有効的であると感じた。今後、他単元や他教材を扱う際にも、このような工夫を取り入れていきたい。
- ・ 本研修を通して、評価の具体や手立てを検討したり振り返ったりする中で、学習評価の在り方を見直すきっかけを得た。国語科だけでなく他教科にも通ずるが、学習指導要領をもとに学習目標や付けたい力を明確にするとともに、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照し、適切な評価の在り方をこれからも考え続け、自身の指導の改善に努めていきたい。

付録1 選書リスト

書名	著者名	出版社名
日本文化を発信！ 鳥獣戯画と絵巻物	山本聡美	あかね書房
みんなが知りたい！日本の「世界遺産」 未来に遺すわたしたちの文化と自然	世界遺産を学ぶ会	株式会社メイツユニバーサルコンテンツ
日本の伝統文化・芸能事典	日本文化いろは事典プロジェクトスタッフ	株式会社 汐文社
はじまりはいつ？ 今につながるくらしと文化	株式会社 幸運者	株式会社 汐文社
日本文化の基礎がわかる 茶道・華道・書道の絵事典 初歩から学ぶ	株式会社 PHP 研究所	株式会社 PHP 研究所
日本の伝統競技 柔道・剣道から綱引き・かるたまで	寒川恒夫	株式会社 PHP 研究所
ポプラディア情報館 年中行事	新谷尚紀	株式会社 ポプラ社
知っておきたい和の行事	新谷尚紀	成美堂
ぎょうじずかん	成美堂出版編集部	成美堂出版
しらべ学習に役立つ日本の歴史⑨ 大名行列を調べる	古川清行	株式会社 小峰書店

付録2 サイトリスト (2026年2月27日現在)

サイト名	URL
高畑勲展—日本のアニメーションを作った男。	https://www.azabudai-hills.com/azabudaihillsgallery/sp/isaotakahata-ex/
高畑勲 人物 NHKアーカイブス	https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009072586_00000
鳥獣人物戯画 世界遺産 梅尾山高山寺 公式ホームページ	https://kosanji.com/chojujinbutsugiga/
鳥獣戯画日本全国巡り旅 - 立誠社	https://risseisha.co.jp/product/10421/